

I わたしたちのくらしと水道

水道水はどんなはたらきをするか

学校での水道水の使われ方



家庭での水道水の使われ方

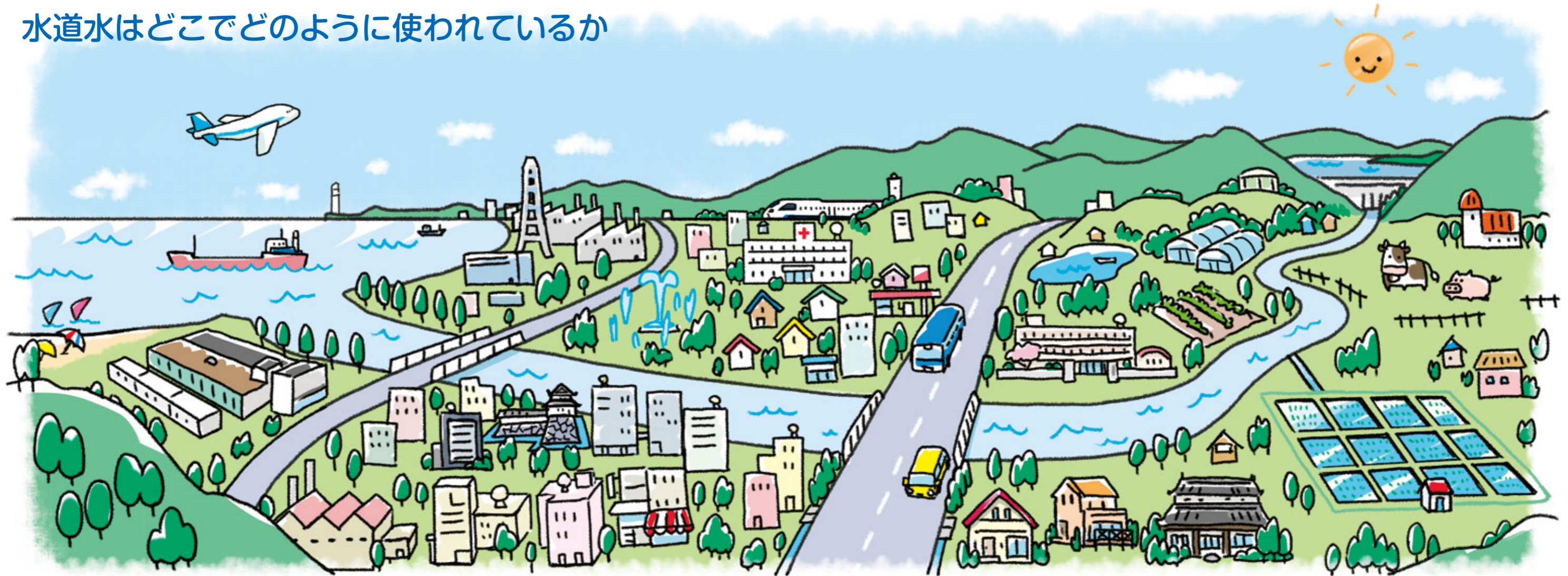


まちでの水道水の使われ方



いろいろな場所で
水道水が使われて
いるんだね！

水道水はどこでどのように使われているか



1日に使われる水道水の量はプール何はい分かな？
大分市全体の1日分が約122,734^{リョウ}㎡

(令和6年度)

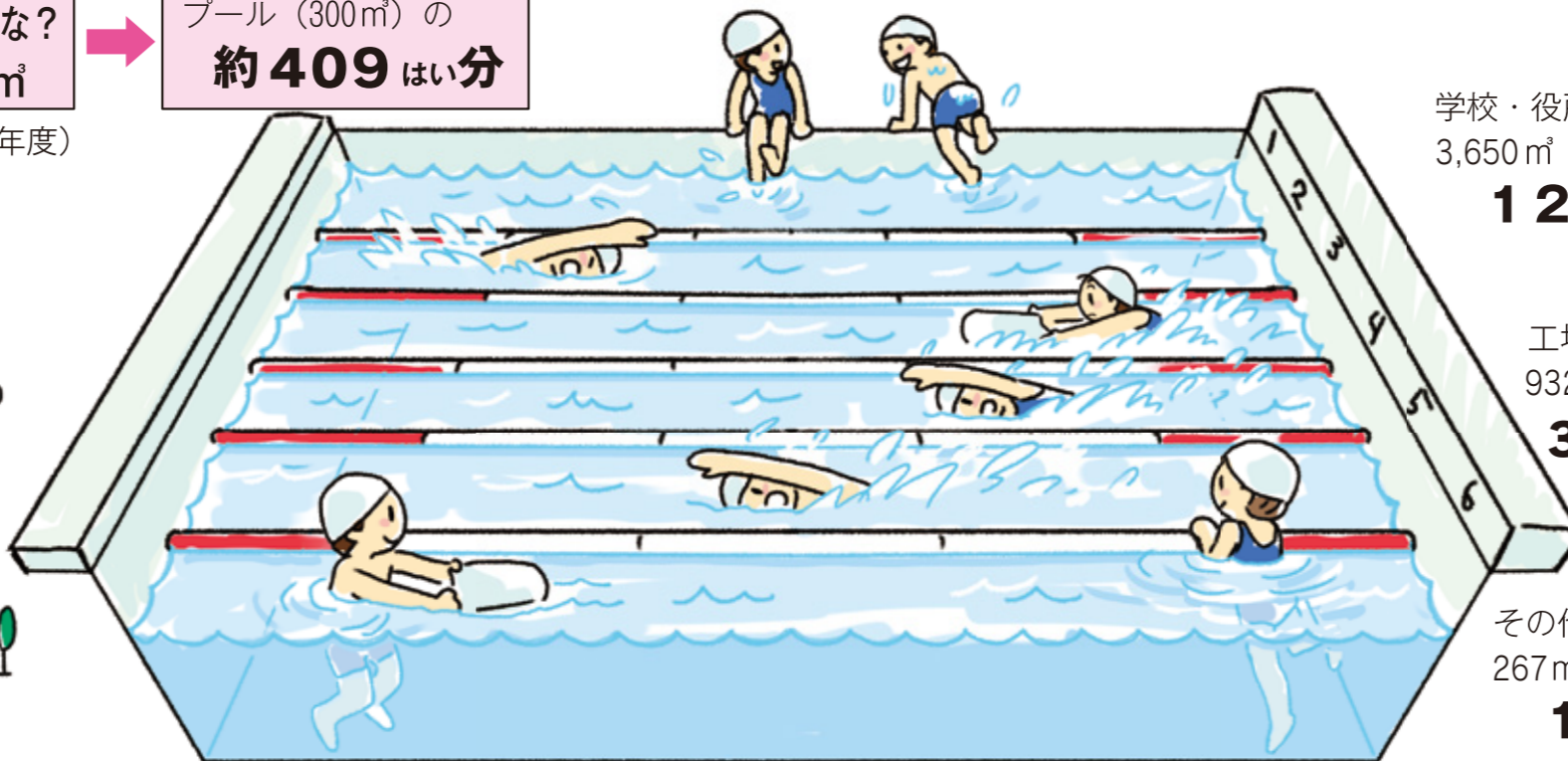
プール(300㎡)の
約409はい分

家庭で
103,394㎡

345はい

会社・病院・店などで
14,491㎡

48はい



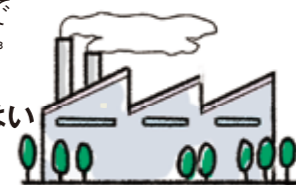
学校・役所などで
3,650㎡

12はい



工場で
932㎡

3はい

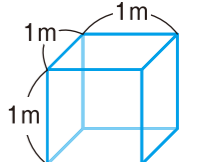


その他
267㎡

1はい

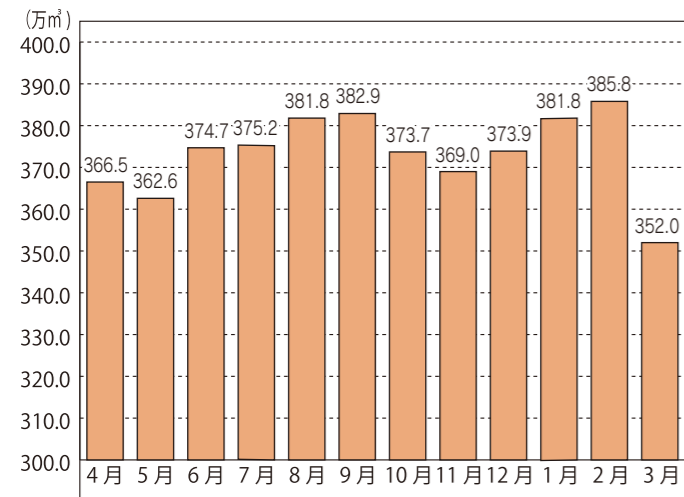


※㎡(立方メートル)
たて、横、高さがそれぞれ1mのようきに入る量を1㎡といいます。



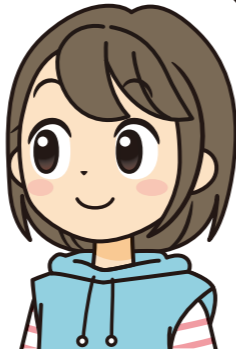
大分市で使う水道水の量

月ごとに使う水道水の量 (令和6年度)

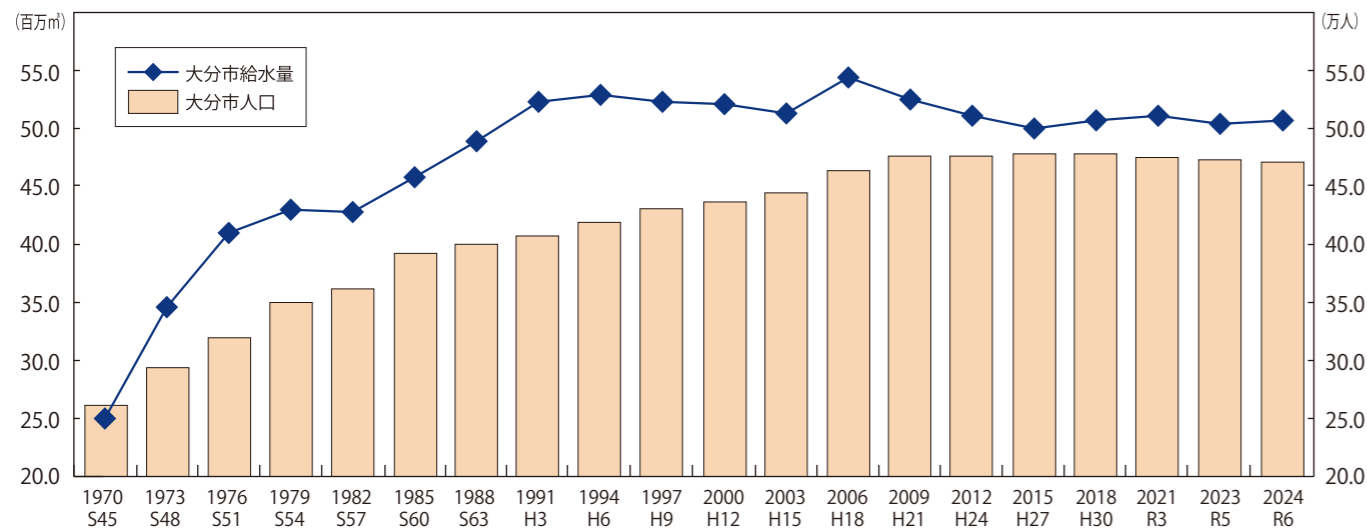


月平均の使用量 373 万m³
プールの約12,444はい分

大分市で月ごとに使う水道水の量はどのようにかわっているのかな



大分市の給水量の変化と人口



年度	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63
給水量 (百万m³)	25.0	27.7	31.1	34.6	36.3	40.2	41.0	41.4	42.3	43.0	41.9	43.6	42.8	44.6	45.2	45.8	46.9	47.9	48.9
行政人口 (万人)	26.6	27.9	29.3	29.9	30.9	31.9	32.7	33.5	34.3	35.1	35.8	36.4	36.9	37.5	38.1	38.7	39.1	39.4	39.9

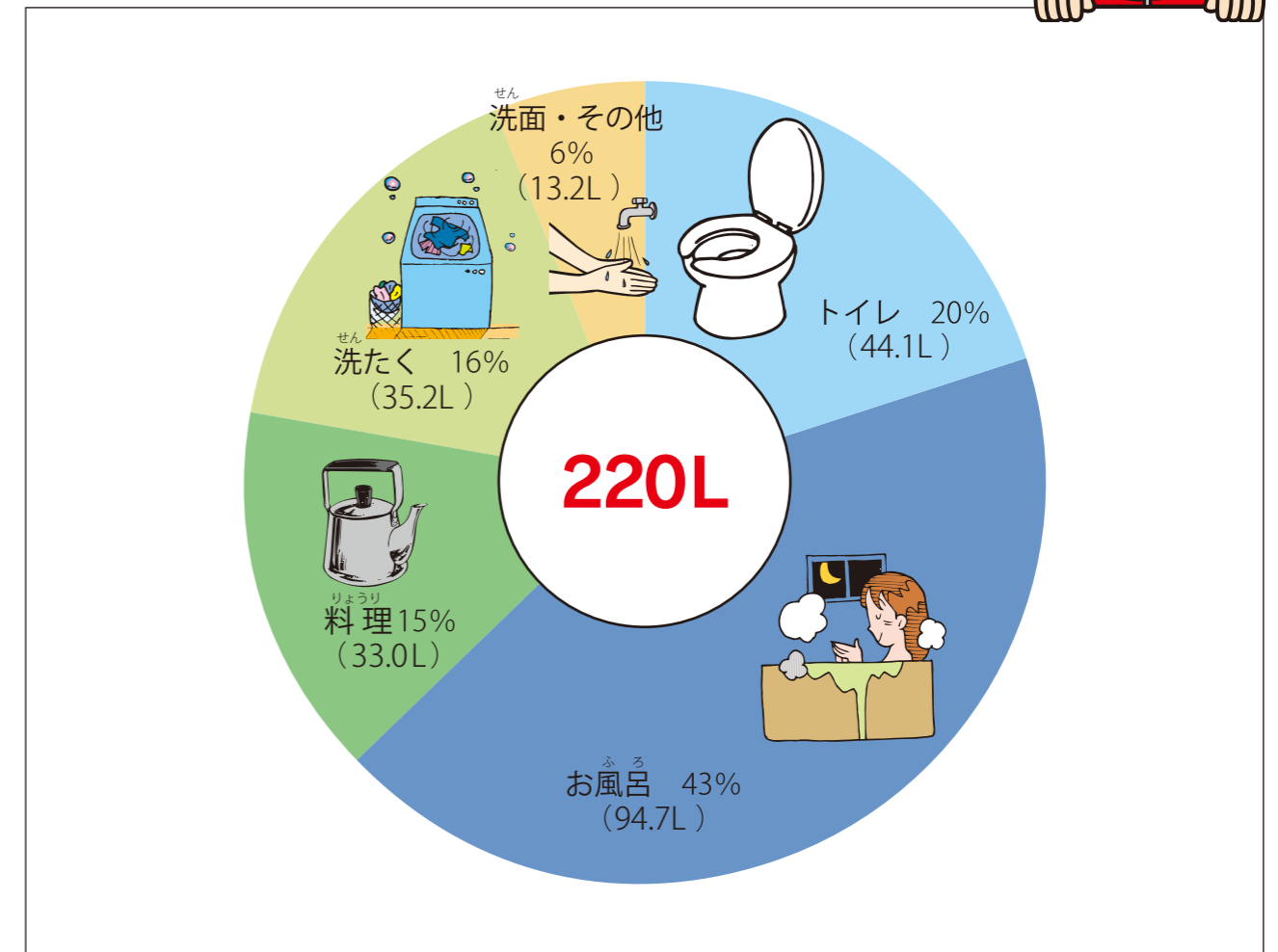
年度	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
給水量 (百万m³)	50.0	52.0	52.3	52.3	51.8	52.9	52.6	52.9	52.3	52.3	51.7	52.1	52.0	51.5	51.3	53.7	54.9	54.4	54.6	53.1	52.5	53.0	52.2	51.1	51.2	50.2	50.0	50.7	50.7	
行政人口 (万人)	40.3	40.6	41.1	41.4	41.8	42.3	42.9	43.2	43.4	43.6	43.8	44.0	44.2	44.4	46.4	46.5	46.7	47.0	47.2	47.3	47.5	47.6	47.7	47.8	47.8	47.8	47.8	47.8	47.8	

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
給水量 (百万m³)	50.0	51.3	51.1	51.0	50.4	50.7
行政人口 (万人)	47.7	47.7	47.6	47.5	47.3	47.1

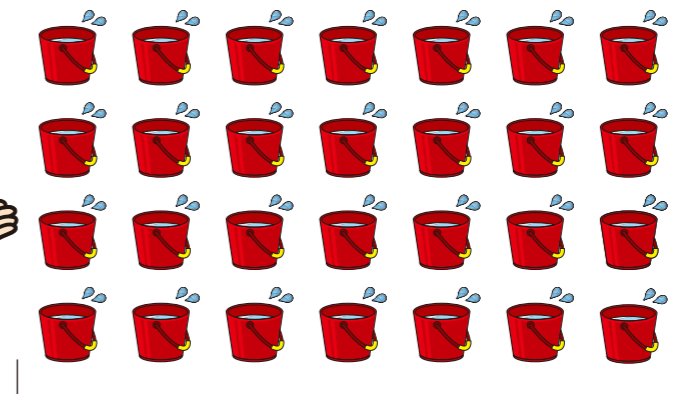
(人口が2004年度(平成16年度)に急激に増加しているのは、合併によって佐賀関町・野津原町が加わったためです。)

家庭で1人が1日に使った水道水の量はどれくらいになるか

考えてみると1日中使っているぞ



バケツ (8L) でならべると



やく 約28はい

水道水の使い方の変化

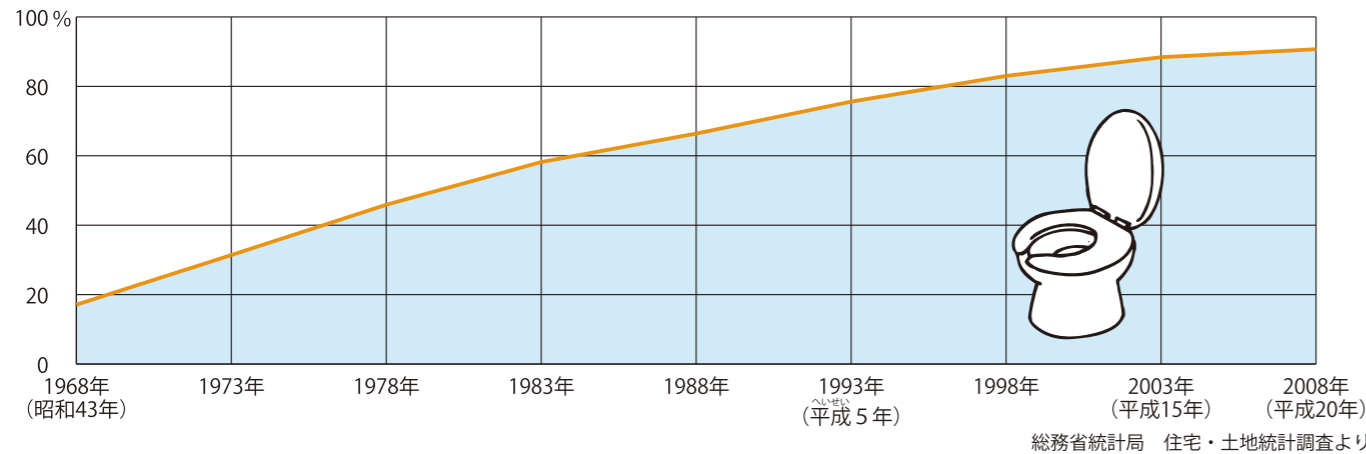
水道ができる前



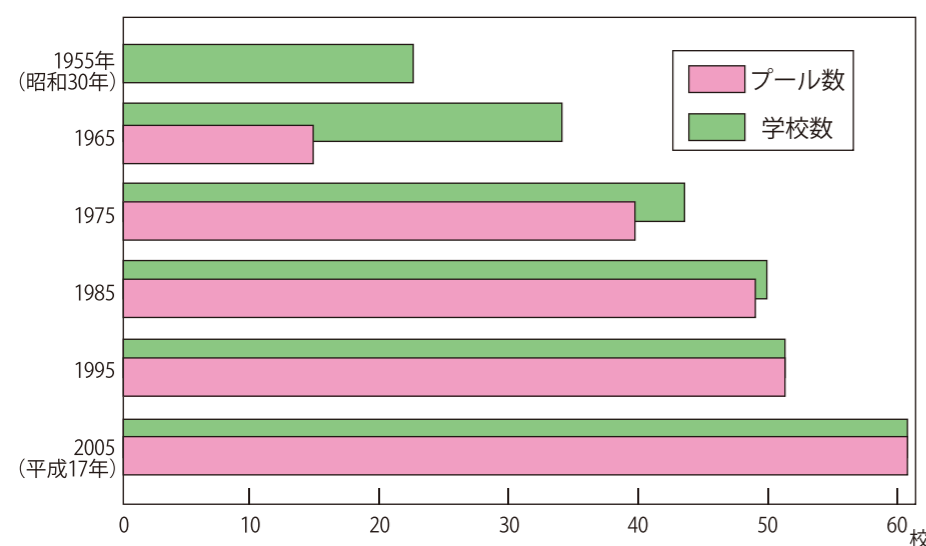
水道ができてから



水洗トイレを使う戸数割合の変化（全国）



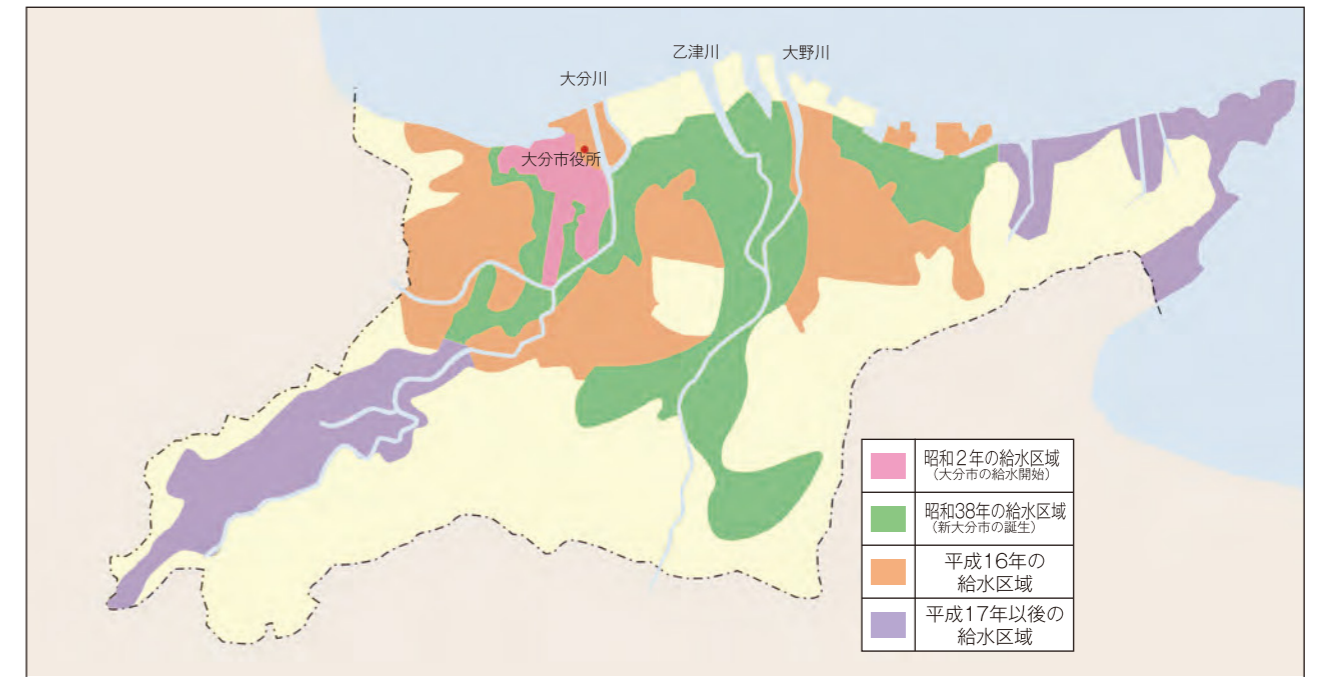
プールのある学校数（小学校）の変化（大分市）



給水量が増えたわけは1つじゃないんだな



給水区域の広がり



水のはなし

じゃ口をひねるとかんたんに出る水道水、わたしたちは苦労もなく水道水を使うことができます。水道は、わたしたちの暮らしをささえる大切なはたらきをしています。水道ができる前の人々は、どこから水を手にいれていたのでしょうか。

昔の人は川の水を使ったり井戸をほって地下水をくみあげて使っていました。川は上流まで行かないと、きれいな水がくめません。井戸水も「つるべ」でくみあげて使っていました。町に住んでいる人々の中には、川の上流で水をくみ、その水を売りにきた「水屋」から買う人もたくさんいたそうです。水を「つるべ」でくみあげるのも、水おけで運ぶのも力のいるつらい仕事ですが、子どもがしていたといいます。また自然の水を使うことは心配もありました。雨がふり続けると水がにごったり、体の害になるものや、ばい菌がまじったりします。大分が市になった明治44年当時は赤痢や腸チフスなどの伝せん病にかかった人が40名（うち死者5名）、次の年には73名（うち死者15名）と、水がもとで病気になる人も多くいました。

昭和2年7月に大分市にはじめて「三芳浄水場」ができ、家庭に水道水が届けられるようになりました。はじめは、つくれる水道水の量も少なく、わずかな家庭しか利用できなかった水道も、今では、ほとんどの家庭で利用できるようになりました。

水道のじゃ口をひねるとすぐに出てくる便利な水道水も昔の人の苦労を考えると、大事にしなければいけませんね。

